

課題1 太郎さんのグループでは、「日本語の歴史」について考えたことを話し合い、発表することにしました。そのために、「日本語の起源」

について書かれた文章を読み、その内容をまとめたメモを作成してグループで話し合いをしています。

資料①から資料③を読んで、あとの(1)から(4)に答えましょう。

資料①【太郎さんの読んだ文章】

動物の名前にしても、鳴き声を写すオノマトペから来ているものがあります。たとえば、「ねこ」。「ねこ」は、どうして「ねこ」なのか？ 「ねーねー」鳴く、可愛い「こ」だからです。「こ」は、可愛いものに付ける*1接辞です。日本人は、可愛いものには「こ」を付ける。現代では「にゃんこ」と言ったりしますね。鳴き声「にゃん」。それに「こ」が付いたものですね。

飼猫は、奈良時代に中国から渡ってきたのですが、その鳴き声の例は、平安時代の『源氏物語』に出ています。「ねうねう」と写しています。ですから、猫の鳴き声を「ねーねー」と聞く場合があったと推測できますね。

「ひよこ」も、「ひよひよ」と鳴く可愛い「こ」で、「ひよこ」です。平安時代の『宇津保物語』に、鳥の声を「ひよ」と写した例があります。ですから、ひよこの声も「ひよ」と写してもおかしくない。「ひよひよ」鳴く可愛い「こ」が、「ひよこ」です。

ちなみに、東北地方では、牛のことを「べこ」といいますね。「べーべー鳴く」可愛い「こ」という意味で、名付けられたものです。

面白いのは、「蚊」。あのちっちゃくてチクンと刺す嫌な虫ですが、なぜ、「か」というのか？ 蚊の羽音を「かあ」と聞いていたところからなんです。怪しいと思われる方は、どうか*2拙論「蚊という名前はなぜ付いた？」をご覧ください。

植物の名前だって、ルーツをたどると、擬音語に行き着くものがあります。たとえば、「ペンペン草」。ナズナの俗名ですが、実の形が三味線のバチに似ていることから、三味線の音色「ペンペン」を連想し、「ペンペン草」と名付けられたんですね。

最後に、とても、オノマトペ出身とは思えない植物名の例を挙げておきましょう。「ひいらぎ」です。どう考えても、オノマトペとは関係なさそうな植物名ですね。奈良時代から存在し、霊力のある植物として大切に扱われています。「ひいらぎ」は、奈良時代では、「ひひらぎ」と記されています。

奈良時代には、「ひひく」という動詞があります。「チクチク痛い」という意味の語です。「ひいらぎ」の葉っぱを思い浮かべてください。葉っぱがギザギザで尖っていて先端が針になっていて、触るとすこぶる痛い。「ひひく」です。だから、泥棒除けの垣根として、よく植えられていますね。

「ひひく」を状態性の語にする時は、日本語では「ら」を使います。「赤ら顔」「つぶら」「きよら」などに使われている「ら」です。「チクチクする状態」は「ひひら」。

「ひひら」に樹木を意味する「き(木)」をつけ、「ひひらき」。さらに、一語化する時に日本語ではよく濁音化する現象を起こします。「しろ」に「くみ」を付けて、一語化すると、「しろぐみ」になりますね。同じようにして、「ひひらき」は、「ひひらぎ」になる。こうして、奈良時代の「ひひらぎ」の語が誕生。

さらに、平安時代から室町時代までの間に、日本語では、語中語尾のハ行音が、ア行音やワ行音に代わるという現象が起きた。「かひ(貝)」と書いて、「かい」と発音しますね。同じようにして、「ひひらぎ」は、「ひいらぎ」になって、現代に継承された。

こうした一見オノマトペと結び付くとは思えない基本的な普通語が、オノマトペ出身なんです。ということは、オノマトペは、言語の起源に何らかの関わり合いを持っているのではないかと思わせます。

山口 仲美著『男が「よよよよよ」と泣いていた』による

*1 接辞 …他の語について意味をそえるもの。

*2 拙論 …筆者が他の本で書いた文章のことで、不十分な考えだとへりくだっている。

オノマトペが語源となった言葉			
鳴き声に		を付けた言葉	
ねーねー	→	ねこ	
ひよひよ	→	ひよこ	
べーべー	→	べこ	
聞こえた音がそのまま名前になった言葉			
羽音の「かあ」	→	蚊	

資料②【太郎さんが整理した、文章の内容をまとめたメモの一部】

資料③【話し合いの様子の一部】

太郎 「ねこ」の語源が、オノマトペと関係しているなんて考えたこともなかったよ。

次郎 そうだね。本文に書かれている「ひよこ」や「べこ」だけではなく、「ぶらんこ」などの「こ」がつく名詞は、オノマトペと関係しているものが多いかもしれないね。

花子 「こ」がつく言葉にしぼって考えるだけでもおもしろそう。

太郎 でも筆者は、「こ」の場合だけではなく、別の言葉の語源も伝えてくれているよ。㊦「ひいらぎ」の語源は複雑だけど、勉強になったなあ。

次郎 語源を考えることは、日本語の変化について考えることにもつながるね。長い時間の中で、たくさんの言葉が生まれ、またたくさんの言葉が使われなくなっていったんだろうね。

花子 ㊦他の日本語の語源についても考えてみたいね。

次郎 まずは、古くから使われている日本語の言葉を列挙してみようか。

(1) ……線「植物名」は、漢字二字の熟語のあとに、一字の漢字を付けた三字熟語です。漢字二字の熟語の前に、一字の漢字を付けた三字熟語を二つ考え、漢字で書きましょう。ただし、二つの三字熟語の中の六つの漢字のうち、同じ漢字を二回使うことはできません。

(2) 太郎さんは、資料①の文章をふまえて資料②を作成しました。あなたが、資料②の ……部分を完成させるなら、空らんにもどのように書きますか。十字以上十五字以内で書きましょう。

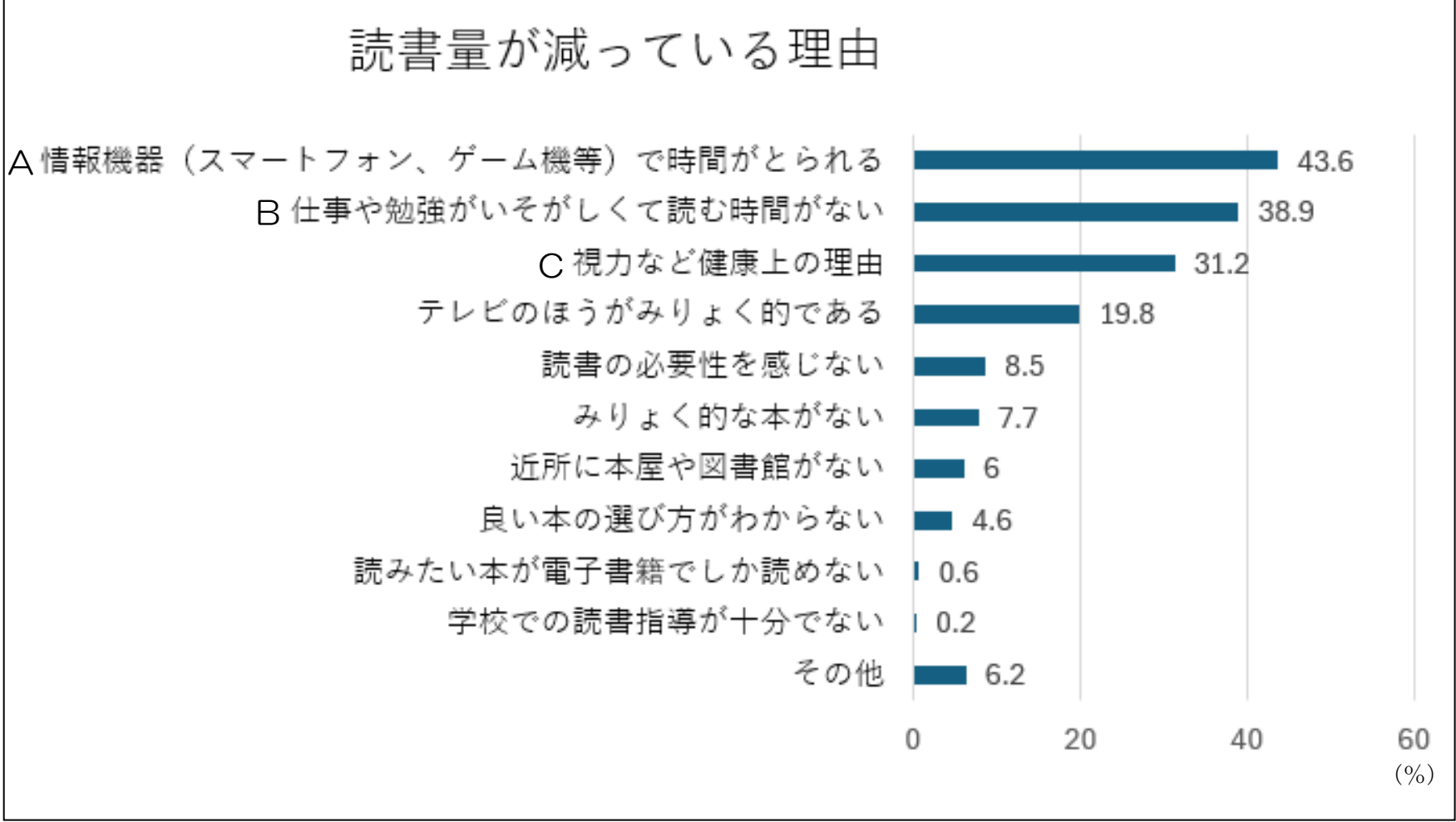
(3) 太郎さんが――線部㊦『ひいらぎ』の語源は複雑だけど、勉強になったなあ』と発言していますが、筆者が、「ひいらぎ」を例に挙げたのは、読み手にどんなことを考えさせるためですか。資料①を参考に、五十字以上六十字以内で説明しましょう。

(4) 花子さんが――線部㊧「他の日本語の語源についても考えてみたいね」と発言していますが、次の文の「どしゃぶり」という言葉の語源について、「どしゃぶり」を二語に分けて、様子がわかるように、五十字以内で書きましょう。
◎どしゃぶりの中、傘もささずに、走って行った。

課題2 次の資料はアンケートで「読書量が減っている」と答えた人たちに【読書量が減っている理由】を調査した結果の一部です。この結果について、あなたはどのように考えますか。また、あなた自身は、読書とどのように向き合っていきたいと考えていますか。資料の上位三つの項目のうちから一つ選んで、にA～Cのアルファベットで書き、あとの条件にしたがってあなたの考えを書きましよう。

〈条件〉

- 選んだ項目について、あなたの読書についての経験や見聞きした内容をふまえて具体的に書きましよう。
- 自分がどのように読書に向き合っていきたいかについて、あなたの考えを書きましよう。
- 書き出しの言葉に続けて、二百字以内で書くこと。(、や。や「」なども一字に数える。)
- マス目から書くこと。また、とちゅうで行を変えないこと。



文化庁「令和5年度『国語に関する世論調査』」から作成

私は を選びました。なぜなら、……

課題3 きよしさんたちは、日本のエネルギーに興味をもって調べ学習を行っています。あとの会話文を読んで、(1)～(3)に答えましょう。

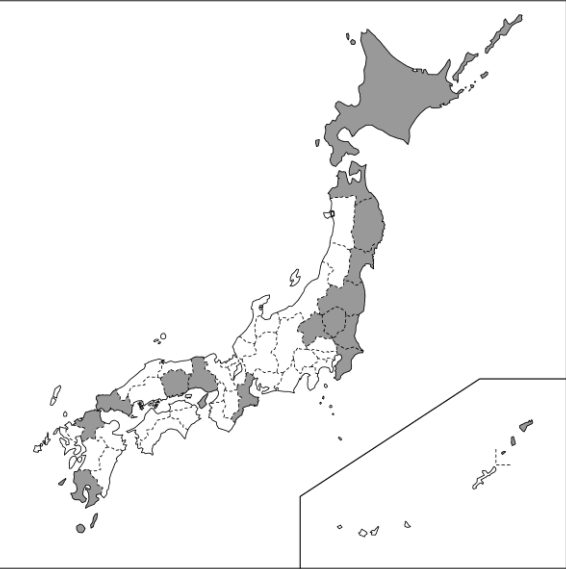
きよし：ぼくたちの町では、最近、太陽光発電のパネルを見かけることが、前よりもずっと多くなったよね。

ひでみ：本当だね。全国でも、太陽光発電が増えているみたいだよ。資料1を見ると、どの都道府県がさかんなのかがわかるね。

まなぶ：へえ、そういえば、日本は地域によって天気のようにすがかなりちがうよね。太陽光発電がさかんな地域には、どのような共通点があるのかな。

(1) 資料1を見ると、太陽光発電がさかんな都道府県は、太平洋側の地域に多いことがわかります。日本海側の地域で太陽光発電がさかんになりにくいのは、なぜだと考えられますか。日本海側の気候に着目して書きましょう。

資料1 太陽光発電電力量 上位15都道府県



(2023 年度)
(データでみる県勢 2025 年版をもとに作成)

ひでみ：でも、日本で使われる電気を太陽光だけですべて発電するのはむずかしそうだね。

まなぶ：たしかにそうだね。じゃあ、日本では実際にはどんな発電方法が多いのだろう。全体のようにも知りたいな。

きよし：そのことについて、発電所の人が話している記事(資料2)を見つけたよ。読んでみると、日本の電気がどうつくられているのかがよくわかるよ。

(2) 資料2の中で取り上げられている二つの問題を解決するために、どのような対策が行われていると考えられますか。どちらか一つ選んでその対策の内容を書きましょう。

資料2 発電所の人の話

日本では、今でも電気のおよそ7割を火力発電でまかなっているため、二つの課題があります。

一つ目は、二酸化炭素の排出量が多いことです。温室効果ガスの排出量を減らすことが世界的な課題になっています。(①)

二つ目は、燃料をほとんど輸入にたよっているため、国際的な燃料価格が上がると電気料金も上がりやすいことです。(②)

一方で、火力発電は天候に左右されず、安定して電気を供給できるという利点もあります。

まなぶ：温室効果ガスの排出を防ぐのに、再生可能エネルギーが有効だとされているけれど、いろいろ調べていくと、資料3のような面もあるのがわかったよ。

ひでみ：再生可能エネルギーだからといって、いいことばかりではないんだね。

きよし：国の目標を資料4にまとめてみると、2030年には発電の構成割合をどのようにするかも決められているね。でも、これで進めていいのかな。

資料3 太陽光発電と風力発電の課題・問題点

発電方法	課題・問題点 (技術・運用)	課題・問題点 かんきょう (環境・社会)
太陽光発電	・天気や日照時間によって発電量が大きく変わる。 ・電気をためるための大容量バッテリーが高価である。 ・広い土地が必要で、都市部では設置がむずかしい。 ・パネルがよごれたりすると発電量が下がる。	・森林を切って設置すると土砂災害の危険が高まる。 ・大規模なパネル設置で景観が変わる。 ・パネルの反射光が近所の家や道路に迷わくをかけることがある。 ・使用後のパネル廃棄が大量に出る見こみで、処理が課題である。
風力発電	・風の強さや向きによって発電量が大きく左右される。 ・海辺・山の上など、風通しのよい場所がかぎられている。 ・大型風車は点検や修理がむずかしくコストも高い。 ・風車の回転で騒音や低周波が出ることがある。	・風車に鳥がぶつかる事故(バードストライク)が起こることがある。 ・風車の音(騒音・低周波)が住民とのトラブルにつながる。 ・山地に設置するときは道路建設のための森林伐採が必要である。 ・海洋に設置するときは海の生き物や漁業との調整が必要である。

(3) 資料3を見ると、再生可能エネルギーは良いところだけではなく、自然にえいきょうをあたえる問題もあることがわかります。また、資料4には、2030年に向けて再生可能エネルギーを増やしていく目標が書かれています。これらをもとに、日本がこれからエネルギーを生み出すときに、どんな工夫が必要だと思いますか。あなたの考えを書きましょう。

資料4 2023年度の発電割合の構成と2030年度の発電割合の構成目標

発電の種類	2023 年度割合	2030 年度目標割合
火力発電	76.1%	41%
原子力発電	9.7%	20～22%
再生可能エネルギー	14.1%	36～38%

(資源エネルギー庁資料をもとに作成)